

インターネットプロジェクト  
*Global Program*運用手順書  
【インストール編】

2000/08/04

---

改訂版号	更新者	更新日	更新内容
1.00	IBM 石村,加藤	2000/08/04	初版

---

 目次

1.	はじめに .....	1
1.1.	開発環境 .....	1
1.2.	システム導入環境 .....	1
1.3.	システム導入手順 .....	1
2.	テーブル作成・初期データの登録 .....	2
2.1.	テーブル一覧 .....	2
2.2.	テーブル作成方法 .....	2
2.3.	初期データの登録(海外 PL データ以外) .....	2
2.4.	初期データの登録(海外 PL データ) .....	2
3.	WAS(WEBSPHERE APPLICATION SERVER)の設定 .....	4
3.1.	JVM(JAVA VIRTUAL MACHINE)の設定 .....	4
3.1.1.	Class パス .....	4
3.1.2.	セッションオブジェクトの有効時間 .....	5
3.1.3.	データベースコネクション .....	6
4.	アプリケーションリソースの導入 .....	7
4.1.	アプリケーションサーバー配下に導入するファイル .....	8
4.2.	ドキュメントルート配下に導入するファイル .....	9
5.	JAR ファイルの作成 .....	11
6.	ログオン画面の導入 .....	11
7.	ACL 設定対象ディレクトリ .....	11
8.	WAS(WEBSPHERE APPLICATION SERVER)及びNS-ENTERPRISEの起動、終了 .....	11
9.	オラクルの起動・終了 .....	12

---

## 図表目次

図 1	JAVA エンジン (パス) .....	4
図 2	セッショントラッキング (時間の設定) .....	5
図 3	接続管理 (プールリスト) .....	6
図 4	接続管理 (プールリスト) 編集 .....	6
表 1	システム環境 .....	1
表 2	データベーステーブル .....	2

## 1. はじめに

本書は東京海上様インターネットプロジェクト、Global Program 用に開発されたアプリケーションの運用手順書【インストール編】です。  
本書は Global Program アプリケーションのインストール及び、初期設定を可能とする事を目的として記述してあります。

### 1.1. 開発環境

本アプリケーションは、以下の環境で作成されたものです。

Machine	DOS/V
OS	WindowsNT Workstation 4.0 Service Pack 5
Developer	IBM VisualAge for Java プロフェッショナル版3. 0
	JDK1.1.6
DB	Oracle 8i for Linux

### 1.2. システム導入環境

	Global Program アプリケーション 導入サーバー	オラクル DB 導入サーバー
サーバー名	Global Programサーバー	DB サーバー
ホスト名	SI3ZC02 ※2000 年7月末時点	SI3C0076
IP アドレス	1.250.1.67	1.250.1.55

表 1 システム環境

### 1.3. システム導入手順

本アプリケーションのインストールおよび、初期設定の手順は、以下の通りです。

尚、Global Program アプリケーション導入サーバー(以下、GP サーバーとする)には、NetScape Enterprise Serve および、WebSphere がインストール済みで、オラクル DB 導入サーバー(以下、DB サーバー)には、本アプリケーション用のテーブルスペースが作成済みとなっている事が前提となります。

#### ① テーブルの作成・初期データの登録

本アプリケーションにて使用するテーブルをオラクル DB サーバー上に作成し、初期データの登録を行います。

詳細については、「2. テーブルの作成・初期データの登録」を参照して下さい。

#### ② Web Sphere の設定

Web Sphere 管理コンソール画面より、JVM、セッションオブジェクトの有効時間、データベースコネクションなどの設定を行います。

詳細については、「3. WAS(Web sphere Application Server)の設定」を参照して下さい。

#### ③ アプリケーションリソースの導入

class ファイル、html などアプリケーションリソースを Global Program 導入サーバーの所定のディレクトリに格納します。

詳細については、「4. アプリケーションリソースの導入」を参照して下さい。

また、properties ファイルを Jar 形式に圧縮する方法を「5. JAR ファイルの作成方法」で説明します。

#### ④ 認証システムの導入・設定

認証システムは、各アプリケーション導入サーバー上で稼動するため、Global Program 導入サーバーにも認証システムの class ファイル等を導入する必要があります。

認証システムの導入方法等の詳細については、本書の範囲外となりますので、認証システム関連の運用要領書を参照して下さい。

本書では、ログオン画面の導入方法と ACL の設定が必要なディレクトリについて、「6.ログオン画面の導入方法」、「7.ACL 設定対象ディレクトリ」で説明します。

#### ⑤ Web Sphere の再起動

上記、作業の完了後、Web Sphere の再起動を行います。

Web Sphere の起動、停止方法については、「8. Web Sphere の起動、停止方法」を参照して下さい。

## 2. テーブル作成・初期データの登録

### 2.1. テーブル一覧

本アプリケーションで使用するテーブルは以下の通りです。

	テーブル名	用途
	TB_GLP_ENTERPRISE_MST	企業コードマスタテーブル
	TB_GLP_USER_ENT	ユーザーID・企業コード変換テーブル
	TB_GLP_ENT_CONT	契約者コード・企業コード変換テーブル
	TB_GLP_CONT_ITEM	契約者コード・種目コード変換テーブル
	TB_GLP_MAIN_MENU	ユーザーメインメニューコントロールテーブル
	TB_GLP_CLAIM_MENU	Claim メニューコントロールテーブル
	TB_GLP_STATUS	ステータス変換テーブル
	TB_GLP_KAIGAI	海外 PL データテーブル
	TB_GLP_WORK	海外 PL データワークテーブル
	VIEW_GLP_KAIGAI	海外 PL データビュー
	TB_GLP_JIKOCHI	事故地・訴訟地テーブル
	TB_GLP_JIKOTAIYO	事故態様テーブル
	TB_GLP_FUSYO	負傷テーブル
	TB_GLP_KEKKAN	欠陥主張テーブル
	TB_GLP_CLAIM	クレーム態様テーブル
	TB_GLP_KAIKETU	解決態様テーブル

表 2 データベーステーブル

### 2.2. テーブル作成方法

DB サーバーのディレクトリ /DB/GLP1/SQL/DDDL/tbl または、/DB/GLP1/SQL/DDDL/view にある、各テーブルの CREATE 文を実行して下さい。

CREATE 文は、テーブル名または、ビュー名.sql のファイル名で、テーブル毎にあります。

注) テーブルのスキーマは、GLPRO1 です。

### 2.3. 初期データの登録(海外 PL データ以外)

DB サーバーのディレクトリ /DB/GLP1/bin にあるシェル glp\_main.sh を使って行います。

インプットファイルは、テーブル毎の CSV ファイルとなります。格納先は DB サーバーのディレクトリ /DB/GLP1/WORK です。

CSV ファイルのフォーマットとファイル名については、外部設計書を参照して下さい。

シェル glp\_main.sh を起動するとメニュー画面が表示されますので、データを登録したいテーブルを選択して下さい。

### 2.4. 初期データの登録(海外 PL データ)

他のテーブルと同様にシェル glp\_main.sh を使って行う方法とクローンタブによる自動更新の2通りの方法があります。

注) 海外 PL データテーブルへのデータ登録は、他のテーブルへのデータ登録完了後に実行して下さい。

事故地・訴訟地テーブル等が登録されていないと、海外 PL データテーブルにデコード値が設定されません。

#### シェル glp\_main.sh を使う方法

DB サーバーのディレクトリ /DB/GLP1/bin にあるシェル glp\_main.sh を使って行います。

インプットファイルは、DB サーバーのディレクトリ /FTP/GLOBAL/にある最新日時のものを使用します。

最新日時はファイルの拡張子で判断します。

#### クローンタブを使う方法

クローンタブに更新したい日等のスケジュールを設定して下さい。

スケジュール日時になると、/DB/GLP1/bin にあるシェル glp\_cron.sh が起動され、海外 PL データテーブルへのデータ登録が行われま

---

す。

インプットデータは、DB サーバーのディレクトリ /FTP/GLOBAL/にある最新日時のものを使用します。

最新日時はファイルの拡張子で判断します。

### 3. WAS (WebSphere Application Server) の設定

Web Sphere 管理コンソールを起動し、以下の設定を行います。

Web Sphere 管理コンソールは、ブラウザより URL <http://1.250.1.67:9527/> にアクセスします。

#### 3.1. JVM (Java Virtual Machine) の設定

##### 3.1.1. Class パス

Application Server Classpath に、アプリケーションのパス (class ファイル, propertie ファイルへのパス)、Oracle JDBC Driver へのパス (classes111.zip, nls\_charset11.zip) を追加します。

1) WAS の管理コンソール画面から、[セットアップ]-[Java エンジン]を選択してください。

本アプリケーションでは以下の設定となっています。

- ApplicationServletClasspath=/usr/J1.1.6/lib/classes.zip:/usr/WebSphere/AppServer/classes:/usr/WebSphere/AppServer/web/classes:/DB/app/oracle/jdbc/classes111.zip:/DB/jdbc/nls\_charset11.zip:/usr/WebSphere/AppServer/Glp/servlets:/usr/WebSphere/AppServer/Glp/properties

2) 設定完了の後、保存ボタンをクリックして設定値を有効にする為に WAS を再起動してください。

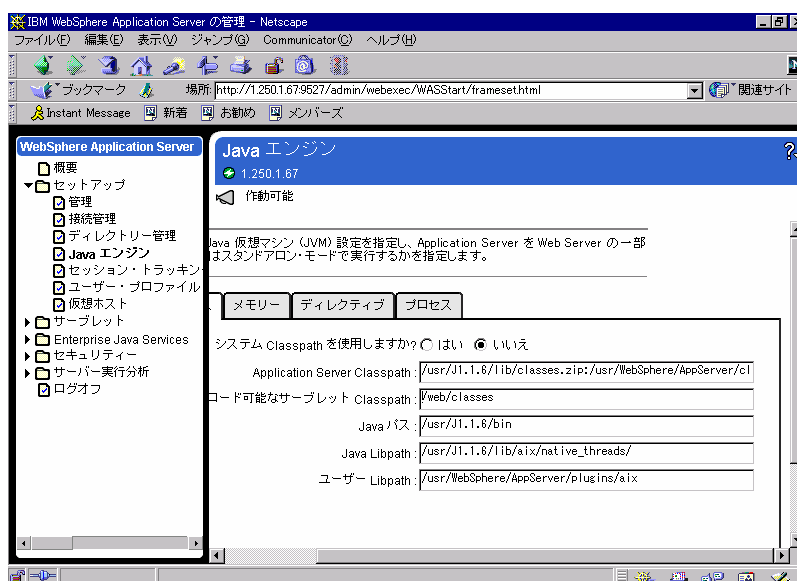


図 1 Java エンジン (パス)

※Application Server Classpath にパスを設定した場合、class ファイルをアップロードした際に WAS の再起動が必要となります。



### 3.1.2. セッションオブジェクトの有効時間

アプリケーションのセッションの有効時間を設定します。

1) WAS の管理コンソール画面から、[セットアップ]-[セッショントラッキング]を選択してください。

2) 本アプリケーションは有効時間を一時間に設定しています。単位はmsです。

本アプリケーションでは以下の設定となっています。

- ・ 無効化までの時間欄 = 3600000(1時間)

(デフォルト 1800000を変更)

3) 設定完了の後、保存ボタンをクリックして設定値を有効にする為に WAS を再起動してください。

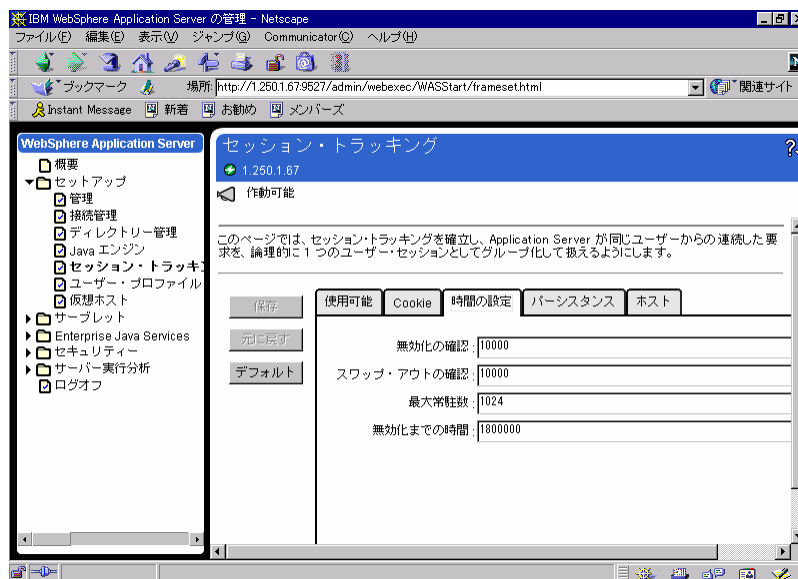


図 2 セッショントラッキング(時間の設定)

### 3.1.3. データベースコネクション

データベースへの接続のプールを設定します。

本アプリケーションでは、データベースコネクションの設定はデフォルト値です。

コネクションの最大数を変更する場合は、以下の通りです。

1) WAS の管理コンソール画面から、[セットアップ]-[接続管理]を選択してください。

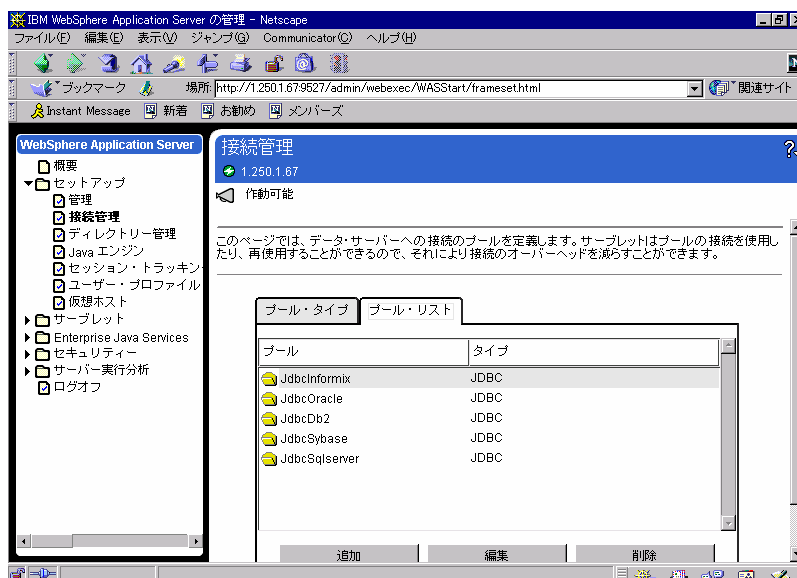


図 3 接続管理(プールリスト)

2) プールリスト一覧よりJdbcOracleを選択して、編集ボタンをクリックします。編集ボタン押下後、次のプロパティ画面が表示されます。

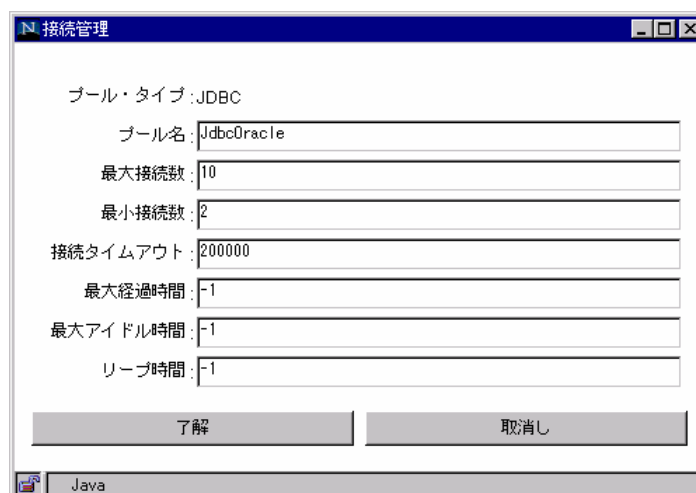


図 4 接続管理(プールリスト)編集







4) 個々の値の設定完了後、保存ボタンをクリックして設定値を有効にする為に WAS を再起動してください。

## 4. アプリケーションリソースの導入

GP サーバーに導入するリソースのディレクトリおよび、ファイルの構成を以下に示します。






ファイルを指定の場所に置いて属性値を変更してください。

### アプリケーション配下

	/usr/WebSphere/AppServer/Glp<755>	
	classes<755>	アプリケーションのクラスファイル
	logs<777>	アプリケーションのログ出力ディレクトリ
	properties<755>	アプリケーションプロパティファイルディレクトリ
	src<750>	アプリケーションソースファイルディレクトリ
	usrContents<755>	ユーザー（企業）のコンテンツ保存ディレクトリ

注1

### ドキュメントルート配下

	/web/web80/Glp<755>	
	DL<777>	ダウンロード時ディレクトリ
	Glp<755>	ダウンロードクラスディレクトリ
	images<755>	イメージディレクトリ
	usrContents<755>	ユーザー（企業）のコンテンツ保持ディレクトリ

注1

注1) アプリケーションが書き込みを行いますので、属性値に書き込み許可を追加してください。

※logs のディレクトリ作成、属性値設定は間違っているとアプリケーションがエラーログを出力することもできないので正しく設定してください。

#### 4.1. アプリケーションサーバー配下に導入するファイル



## 4.2. ドキュメントルート配下に導入するファイル

<ul style="list-style-type: none"> <li>logs&lt;777&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>GlpApl.log (アプリケーションが作成)</li> <li>GlpErr.log (アプリケーションが作成)</li> </ul> </li> </ul>	<p>アプリケーションのログ出力ディレクトリ アプリケーションログファイル アプリケーションエラーファイル</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>properties&lt;755&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>claim_url_drive.properties&lt;755&gt;</li> <li>dbconn.properties&lt;755&gt;</li> <li>error_code.properties&lt;755&gt;</li> <li>error_jsp.properties&lt;755&gt;</li> <li>information.properties&lt;755&gt;</li> <li>jsp_ctl.properties&lt;755&gt;</li> <li>jsp_uri.properties&lt;755&gt;</li> <li>ldap.properties&lt;755&gt;</li> <li>log_application.properties&lt;755&gt;</li> <li>log_error.properties&lt;755&gt;</li> <li>others.properties&lt;755&gt;</li> <li>pl_download_list.properties&lt;755&gt;</li> <li>pl_list_ctl.properties&lt;755&gt;</li> <li>trc_sect_cd.properties&lt;755&gt;</li> <li>glp.jar&lt;755&gt;</li> <li>ibmjndi.jar&lt;755&gt;</li> <li>jndi.jar&lt;755&gt;</li> </ul> </li> </ul>	<p>アプリケーションプロパティファイルディレクトリ Claimでのアジャスターシステム、TMCS、TMMS遷移先URL設定ファイル データベースコネクション設定ファイル エラーコード設定ファイル エラー表示JSPファイル設定ファイル ユーザー共通インフォメーション設定ファイル JSP画面遷移設定ファイル JSP URL設定ファイル LDAP設定ファイル アプリケーションログ設定ファイル アプリケーションエラー設定ファイル Othersコンテンツ管理設定ファイル ファイルダウンロード設定ファイル 検索結果一覧表示設定ファイル TRC課支社コード設定ファイル 各プロパティファイルのJAR圧縮ファイル } LDAP検索時に必要となるJARファイル</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>src&lt;750&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>Glp&lt;750&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>GlpClaim&lt;750&gt;</li> <li>GlpCommon&lt;750&gt;</li> <li>GlpDownload&lt;750&gt;</li> <li>GlpLdap&lt;750&gt;</li> <li>GlpMenu&lt;750&gt;</li> <li>GlpOthers&lt;750&gt;</li> <li>GlpPolicy&lt;750&gt;</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<p>アプリケーションソースファイルディレクトリ</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>usrContents&lt;755&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>gblp_AllEntry.xls&lt;755&gt;</li> <li>gblp_graph.xls&lt;755&gt;</li> <li>gblp_startup.vbs&lt;755&gt;</li> <li>toyota&lt;777&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>download_list.csv&lt;755&gt;</li> <li>jpSummary&lt;755&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>(JapaneseSummary.xls&lt;755&gt;)</li> <li>:</li> </ul> </li> <li>policyData&lt;755&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>(PolicyDat.xls&lt;755&gt;)</li> <li>:</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>nissan&lt;777&gt;</li> <li>honda&lt;777&gt;</li> </ul> </li> </ul>	<p>ユーザー（企業）のコンテンツ保存ディレクトリ [Excel]ダウンロード時のExcelマクロファイル [Graph/Summary]ダウンロード時のExcelマクロファイル クライアントアプリケーション起動VBScriptファイル</p> <p>ユーザー（企業）毎のコンテンツ保存ディレクトリ ダウンロードリスト設定ファイル</p> <p>Japanese Summary用コンテンツ保存ディレクトリ (ダウンロードファイル)</p> <p>Policy Information用コンテンツ保存ディレクトリ (ダウンロードファイル)</p>

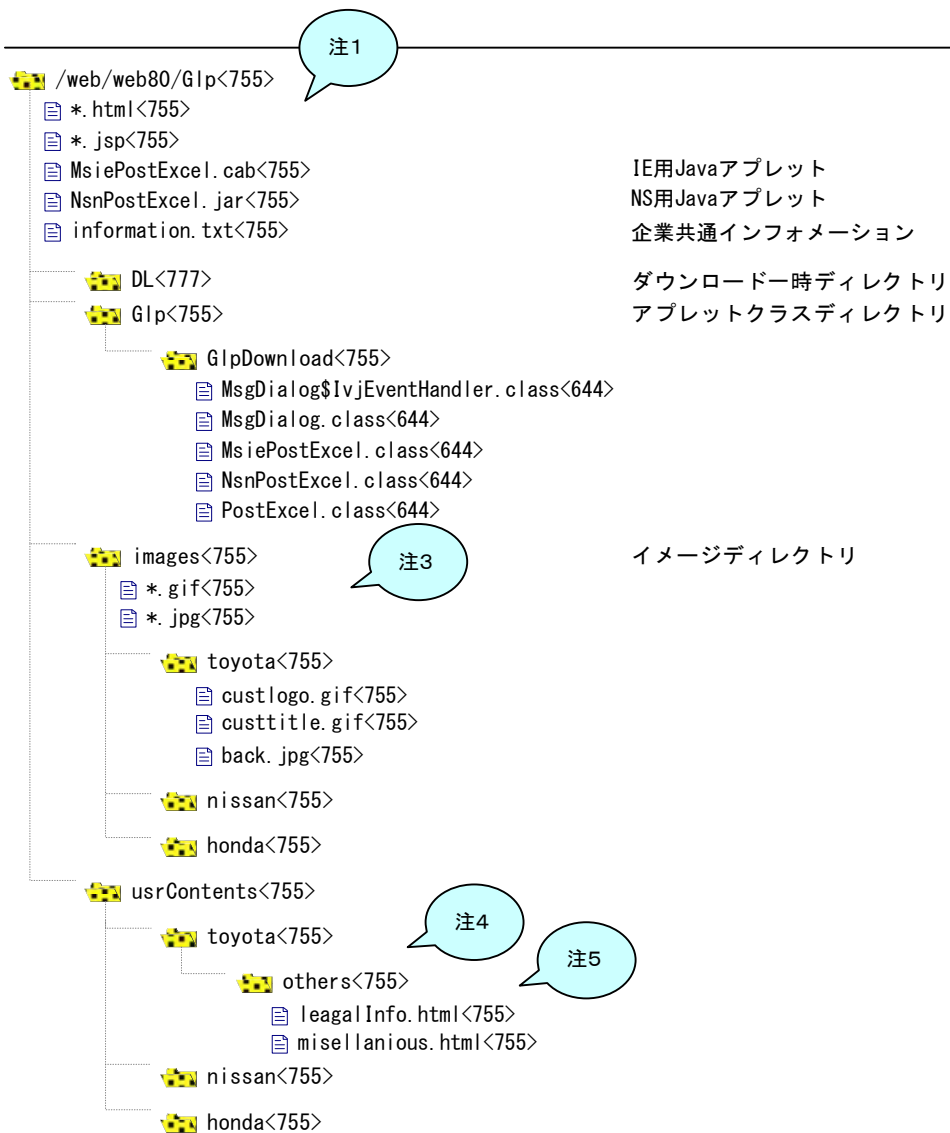
注1

注2

注1) プロパティファイルは、JAR 形式のファイルにする必要があります。(11p JAR ファイルの作成 参照)

注2) ユーザー（企業）を追加する場合、ユーザー（企業）毎のコンテンツ保存ディレクトリは階層下(Japanese Summary 用、Policy Data 用コンテンツ)のディレクトリも含めて作成してください。

アプリケーションが書き込みを行いますので、属性値に書き込み許可を追加してください。



注1) 拡張値html、jspのファイル全てを指します。

注2) アプリケーションが書き込みを行いますので、属性値に書き込み許可を追加してください。

注3) 拡張子 gif、jpg のファイル全てを指します

注4) ディレクトリ others は、@News&@Views 用コンテンツ格納ディレクトリです

注5) leagalInfo.html は、Tokio Marine Network 用に表示される HTML です

## 5. JAR ファイルの作成

プロパティファイルは、システムが読み込めるようにするために、プロパティファイルを一まとめにして JAR 形式のファイルにして置く必要があります。

JAR ファイルの作成は、作成するファイルのあるディレクトリに移動して、

```
jar -cvf glp.jar *.properties
```

と、タイプして作成してください。

参考)

```
jar -tvf glp.jar      :一覧表示
```

```
jar -xvf glp.jar      :jar ファイルの解凍
```

## 6. ログオン画面の導入

社外ユーザー用のログオン画面は、ディレクトリ /web/web80/docs/ezu1 に導入して下さい。

ファイル名は AuthGLP1LogonJSP2.jsp です。

ログオン画面のデザイン変更などカスタマイズをする場合は、このファイルを変更します。

カスタマイズ可能な範囲は、認証システム関連の運用要領書で確認してください。

## 7. ACL 設定対象ディレクトリ

本アプリケーションでは、ユーザー（企業）毎に異なるコンテンツを提供するため、ユーザー（企業）毎に GP サーバー上のリソースへの ACL を設定しています。

以下のディレクトリ配下のディレクトリおよび、ファイルに対しては、該当ユーザー（企業）と社内ユーザーのみアクセスできます。

- ・ /usr/WebSphere/AppServer/Glp/usrContents/企業コード
- ・ /web/web80/Glp/images/企業コード
- ・ /web/web80/Glp/usrContets/企業コード

ACL の設定は認証システムで行いますので、設定方法等は認証システム関連の運用要領書を参照下さい。

## 8. WAS (WebSphere Application Server) 及び NS-Enterprise の起動、終了

NS-Enterprise の起動を行えば自動で WAS も起動されます。(WAS の起動は NS-Enterprise の起動シェルに記述されています。)

Global Programサーバーでは、

```
/opt/ns-enterprise3/https-SI3Z002
```

のディレクトリに移動し、コマンドを実行してください。

・起動

```
1) start
```

を実行します。(パスが通っていない場合がありますので、“./start”とタイプしてください)

・終了

```
1) stop
```

を実行します。(パスが通っていない場合がありますので、“./stop”とタイプしてください)

終了の場合、NS-Enterprise とは別に WAS のプロセスを終了させる必要があります。

```
2) ps -e | grep java
```

を実行し、表示されたプロセス番号を、

```
3) kill -9 [pid ...]
```

で、終了させます。(pid の所にpsで表示された全てのプロセス番号をスペースで区切ってタイプしてください)

※Java のクラス、プロパティファイルを変更した場合は、WAS の再起動が必要となります。

---

## 9. オラクルの起動・終了

オラクルの起動・終了を行なうには、オラクルのアカウントで入っている必要があります。

まず、

```
su - oracle
```

で、オラクルユーザーに変わります。

・起動

```
1) SI3C006:oracle>svrmgrl
```

```
2) SVRMGR>connect /as sysdba
```

```
3) SVRMGR >startup
```

を実行します。

オラクルを起動した後、他のマシンからアクセスできるようにする為にはリスナーを起動しておく必要がありますので、

```
1) LSNRCTL>lsnrctl
```

```
2) LSNRCTL>start
```

を実行してリスナーを起動させてください。

・終了

```
1) SI3C006:oracle>svrmgrl
```

```
2) SVRMGR >connect /as sysdba
```

```
3) SVRMGR >shutdown
```

を実行します。